

津市私立幼稚園協会 教員研修会

令和5年8月29日(火) 13:30～

高田会館

「次代を担う子どもたちにつけたい力を育むために ～伝えたいこと～」

津市教育委員会 教育長 森 昌彦

1 はじめに

自己紹介

3年間のコロナ禍で思ったこと(学んだこと)

2 子どもたちにどんな力をつけたいか? そのためにすべきことは?

【これからの世の中は?】

【子どもたちにつけたい力】

自分らしく(主体的に)

課題に立ち向かい、解決していく力(令和の日本型学校教育)

→認知能力とともに、非認知能力(=自分の人生を切り開いていく力)

がとても大切

自己肯定感

ポイントは幼児期(幼児教育は本当に大切、それに携わる先生方も本当に大切)

【津市の教育】(津市教育振興ビジョン後期基本計画の3つの重点施策)

架け橋プログラム

地域とともに(学校運営協議会、地域学校協働本部)

津市G I G Aスクール構想

教育とは？

実際の社会で活用できる資質・能力の育成のために大切なこと

これまでの学力観と現在の学力観

そのために学校教育で大切なこと

出会い、体験（地域とともに）

授業改善（G I G Aスクール構想）

- ・個別最適（意欲の向上）、協働学習
- ・アウトプット（かつてはインプット中心の授業）

成功体験、成就感、自分たちの意見が取り入れられる経験（特に高学年から
中学校にかけて、高校も）

就学前の教育・保育の大切さ（架け橋プログラム）

子どもの姿をもとに10の姿を使って楽しく話し合う

（持続可能な取組、積み上げていくこと、広げていくこと）

ほぼ100%の園が「保育がこども主体であることが重要」と考える一方で、

「こども主体」を実現している園は全体の約二割にとどまる。

3 おわりに

ウェルビーイングについて

「次代を担う子どもたちにつけたい力を育むために
～伝えたいこと～」



令和5年8月29日 津市私立幼稚園協会教員研修会

津市教育委員会 教育長 森 昌彦

乳幼児期から小学校への連続した学び～津市架け橋プログラムの実施において～

これまでの幼小連携の取組からの課題

- 多くの幼稚園及び小学校が、幼小連携の在り方に課題意識を持っている。また、各校・園における連携の必要性に関する意識の差があったり、連携の対象となる校・園がはっきりしていなかったりなどの状況がある。
- 各校区における幼小連携が、行事の交流や就学前の引継ぎ等にとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない場合が多い。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解が十分でなく、到達目標と誤解され、連携の手がかりとして十分機能していない。また、幼児教育施設が多様な施設類型に分かれていることから、幼児教育施設間で連携を図りながら共通理念をもって、小学校へ幼児期の育ちを発信していくことが必要である。

津市架け橋プログラムがめざすもの

- 幼児期から児童期のそれぞれの発達の特徴や連続性を見通しつつ、5歳児と小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、幼児教育と小学校教育の関係者が連携しながら、それぞれのカリキュラム・教育方法の充実・改善にあたる。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼児教育と小学校教育の関係者による子どもの姿、育ち、学びについての話し合いを充実させ、相互理解を図るとともに、それぞれの教育方法の充実・改善につなげる。
- 架け橋期における環境の構成や子どもへの関わり方に関する工夫等を見える化し、家庭や地域にも発信する。

【令和4年度】カリキュラムの開発

- 津市架け橋期カリキュラム在り方検討委員会
- 相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・見直し
 - 園・小学校と関係機関及び関係団体との連携
 - 入学当初の小学校1年生の実態把握アンケート実施
- 津市架け橋期カリキュラム検討ワーキング会議
- 実践・交流・協議
 - カリキュラムの作成

【令和5年度】カリキュラムの検証

- モデル小学校区における津市架け橋期カリキュラムの実践・検証
- モデル小学校区の取組実践報告会の実施
- 津市架け橋期カリキュラムの見直し・完成

【令和6年度】カリキュラムの実施

- 小学校区において、架け橋期カリキュラムを作成・実践
- 実践交流会を実施



小学校教育

幼児教育

3歳未満保育

認知能力

非認知能力

非認知能力の基礎
愛着形成

各教科等の学習内容の系統的な学び

- ・言語的な学び
- ・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- ・到達目標「～できるようにする」等
- ・教科カリキュラム（学問の体系を重視）
- ・学級、学年等
- ・時間割に沿った一日の流れ



遊びや生活を通じた総合的な学び

- ・学びの芽生え
- ・5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）
- ・方向目標「～を味わう」「～を感じる」等
- ・経験カリキュラム（生活や経験を重視）
- ・個人、友達、小集団
- ・子どもの生活のリズムに合わせた1日の流れ



自己を発揮し、主体的に新しい学校生活を創り出す



遊びや生活の中で出会う興味や関心に沿ったICT機器の活用

- 主体的な活動の中で「見る」「調べる」「共有する」といった活動の広がり
- 職員と一緒にICT機器を活用して、自分たちの思いの実現のために、試行錯誤したり、想像を膨らませたりしながら、役割や手順、時には上手いかなし、経験しながら解決策を模索するなど、生活の中で**意欲力の芽生え**が育まれる。
 - 個人の体験で留まらず、集団とのやり取りの中で、情報収集、対話、探求心を生み出し、体験と体験をつなぐことで、**学びに向かう力**につながる。

小学校での活動

各教科等の学習内容の系統的な学び
タブレット端末を活用した個別最適化・協働的な学び

「虫を豊たけよう！」
生活科の単元に収穫に出て、春を待ちながら自分で見つけた春（花や虫等）を、一人一台タブレット端末で写真に撮って、友達に紹介する活動

幼稚園での活動

遊びや生活を通じた総合的な学び
ICT機器を活用した幼児の豊かな体験

「カメはどこにどこに住みたいのかな？」
カメに登場を待ち、前やりのなどの世話をしながら、カメが登陸するところを待ち、カメの足跡をたどる活動

学校と地域が一体となって進める教育

～学校運営協議会と地域学校協働本部の連携を通して～

●●● 背景：時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化 ●●●

◆教育環境を取り巻く状況

- ・児童生徒数の減少
- ・子どもの規範意識等への課題
- ・学校が抱える課題の複雑化・困難化

◆教育改革の動き

- ・「社会に関わられた教育課程」の実現

◆社会の動向

- ・少子高齢化の進行
- ・グローバル化や情報化の発展
- ・地域社会のつながりや支えあいの希薄化による地域の教育力の低下

◆地方創生の動き

- ・学校を核とした地域の活性化

P 計画

学校運営協議会

- 学校運営の基本方針の承認
- 地域学校協働活動に関する協議
 - ・何を目的・目標にして行うのか
 - ・どのようにして行うのか（効果的な手段は）
 - ・学校の「教育課程」とどのように関連付けるのか

●学校マネジメント力の育成

地域学校協働本部

- 地域学校協働活動の推進
- コーディネーターの確保と養成
- コーディネーターの資質向上のための研修会の実施

D 実行

- 幅広い地域住民や団体の参画
- 地域と学校をつなぐコーディネート

地域学校協働活動

- ◆授業補助
- ◆学校行事への参加
- ◆学校周辺環境整備
- ◆登下校の見守り
- ◆郷土学習
- ◆本の読み聞かせ
- ◆課題解決学習
- ◆学びによるまちづくり
- ◆キャリア教育支援
- ◆公民館活動への参加
- ◆放課後子供教室
- ◆地域行事への参加
- ◆ボランティア・体験活動等

地域とともにある学校づくり

～子どもたちが夢や希望を持ち続け、生き抜いていく未来をめざして～

- 保護者や地域住民等が学校運営に参画する体制づくり
- コミュニティ・スクールの趣旨や効果の啓発
- 先進事例の紹介
- カリキュラムマネジメントの推進

教育委員会

- 学校運営に関する意見
- 教職員の任用に関する意見
- 地域学校協働活動の改善
 - ・目的・目標の（再）設定・微修正
 - ・具体的な手段・方法の工夫・変更
 - ・新たな課題への対応をどのように行うか
 - ・業務改善をどのように行うか

●学校評価（自己評価・学校関係者評価）

A 改善

C 評価

津市GIGAスクール構想の実現

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざして～

個別最適な学び

生涯にわたって学び続けようとする意欲、個性や能力を生かした学びによる確かな資質・能力の育成

一斉学習

～双方向型一斉授業の実現～



◆タブレット端末を活用し、リアルタイムで児童生徒の様子等を把握しながら進める学び

個別学習

～ニーズや学習状況に応じた個別学習の実現～



◆デジタル教材を活用した一人一人の教育的ニーズや理解度等、態に応じた学び

協働学習

～各自の考え等を共有しながら学び合う授業の実現～



◆授業支援ツールを活用し、児童生徒どうしが意見を交換し、お互いの学びを高め、深める学び

家庭学習

～学校の授業と家庭の学習との連携した学びの実現～



◆授業支援ツールやデジタル教材を活用し、学校の授業と家庭の学習を連携する学び

多様な価値観や考えに触れることで、協働しながら問題発見や問題解決に挑む資質・能力の育成

協働的な学び

学校・家庭・地域とのデジタル連携



すぐにでも、どの教科でも
タブレット端末を学びの文房具に

「主体的・対話的で深い学び」
の実現に向けた授業改善



情報社会に参画する態度

情報活用能力の育成

学びを進める学習ツール

津市 e-Learning ポータル

各学校コース、教育委員会コースのコンテンツ（学習動画、ワークシート等）を活用する。個々の学習に対するフィードバック機能や、ポートフォリオ機能を使うことで学びが深まります。



ロイノート・スクール

児童生徒の思考を可視化し、共有するための学習支援アプリを使って、授業のイメージを転写する。特にシンキングツールの活用によって、主体的・対話的で深い学びを実現させます。



みんなの学習クラブ

教師及び児童生徒が、インターネット上で必要な学習用プリントを作成し、活用する。マルチメディア動画や解答ページを使って、個別学習を充実させます。



デジタル教科書

拡大表示、書き込み、保存・表示、音声読み上げ、背景色・文字色の変更、反転、ルビ等の機能を使って、より効果的な学習を展開させます。



ZOOM を活用したオンライン学習

臨時休業、自宅待機等の非常時や、遠隔地の学校との交流、不登校児童生徒など家庭にいながら、教師や友達とつながって学習を進めます。

